

選択的評価事項に係る評価

# 自己評価書

平成23年6月

聖徳大学



## 目 次

I	大学の現況及び特徴	1
II	目的	2
IV	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	3

※「Ⅲ 選択的評価事項A 研究活動の状況」は申請していません。



## I 大学の現況及び特徴

### 1 現況

- (1) 大学名 聖徳大学  
 (2) 所在地 千葉県松戸市  
 (3) 学部等の構成

学部：児童学部、人文学部、人間栄養学部、音楽学部

研究科：児童学研究科（博士前・後期）、言語文化研究科（博士前・後期）、臨床心理学研究科（博士前・後期）、人間栄養学研究科（博士前・後期）、音楽文化研究科（博士前・後期）、教職研究科（専門職学位課程）

附置施設等：児童学研究所、言語文化研究所、生涯学習研究所、生涯学習社会貢献センター、保健センター、情報処理教育センター、AO入試研究センター、心理教育相談所、聖徳大学オープンアカデミー、聖徳大学オープンアカデミー音楽研究センター、川並記念図書館、聖徳博物館

関連施設：聖徳大学短期大学部、聖徳大学幼児教育専門学校、聖徳大学附属女子高等学校、聖徳大学附属取手聖徳女子高等学校、聖徳大学附属女子中学校、聖徳大学附属取手聖徳女子中学校、聖徳大学附属小学校、聖徳大学附属幼稚園、聖徳大学附属第二幼稚園、聖徳大学附属第三幼稚園、聖徳大学附属浦安幼稚園

- (4) 学生数及び教員数（平成23年5月1日現在）

学生数：学部7,396人（通信教育3,686人含む）、

大学院218人（通信教育87人含む）

専任教員数：236人（学長を含む）

助手数：36人

### 2 特徴

現代の日本社会は少子高齢社会を迎え、大学への進学率は50%を大きく上回り、高等教育の「ユニバーサル時代」の到来とともに、多様な学生が多様な大学教育を受ける時代となった。本学園では、このような時代の変化に的確に対応するため、短期大学部、学部、大学院の教育組織を拡充してきた。大学院では発足時の児童学研究科、言語文化研究科に加えて、現在では臨床心理学研究科、人間栄養学研究科、音楽文化研究科、さらに教職研究科が開設され、しかも教職研究科（専門職学位課程）

を除いてすべてに博士後期課程を備えた5研究科体制に拡大している。学部は、かつての人文学部一学部を発展的に改組拡充し、現在では、児童学部児童学科、人文学部社会福祉学科・心理学科・生涯教育文化学科・女性キャリア学科・英米文化学科・日本文化学科、人間栄養学部人間栄養学科、音楽学部演奏学科・音楽総合学科の4学部10学科を擁している。短期大学部もまた保育科と総合文化学科として、教育環境や教育内容の整備充実を図っている。

#### 沿革

川並香順・孝子夫妻が昭和8年東京の大森に聖徳家政学院・新井宿幼稚園を創立して以来、本学園は、一貫して幼児教育・女子教育に力を注いできた。幼稚園から始まり、小、中、高等学校、短期大学から四年制大学、さらに大学院を擁する総合学園として、「和」の精神を建学の理念とし、社会に通用する人間としての能力の育成と、人格の形成、“心”の教育にあたってきた。

学園は戦時中の東京空襲により、建物、教育教材などすべてを失い、焼け野原の中から復興に当たってきた。昭和40年、千葉県松戸の地に聖徳学園短期大学の設置が認可され、高等教育機関としての短期大学が発足し、「家政科」と「保育科」が開設され、「保育の聖徳®」を築き上げる基となった。その後、女性の高学歴化が進み、四年制大学への志向が強くなるのに応えて、平成元年12月、聖徳大学人文学部の設立が認可され、児童学科、日本文化学科、英米文化学科が設置された。

これ以降、人文学部は児童学科、社会福祉学科、心理学科、生涯教育文化学科、現代ビジネス学科、外国語学科、英米文化学科、日本文化学科、人間栄養学科、音楽文化学科の10学科へと拡充し、それぞれが発展する社会のニーズに対応する教育を展開してきた。その後、平成20年度には、人文学部児童学科は児童学部、音楽文化学科は音楽学部、さらに平成22年度には、人間栄養学科は人間栄養学部へ昇格した。これと平行して、平成10年4月には、児童学研究科と言語文化研究科から成る大学院が設置され、幼稚園から大学院までの一貫した教育組織が完成した。児童学部、人文学部社会福祉学科、日本文化学科、英米文化学科には通信教育課程が置かれ、大学院にはその後、臨床心理学研究科、人間栄養学研究科、音楽文化研究科が増設され、今日に至っている。

## Ⅱ 目的

聖徳太子の「和」の精神を建学の理念として、教育基本法及び学校教育法に則り、學術の中心として、広く知識を授けると共に、深く専門の学芸を教授研究し、知的・道徳的及び応用的能力を展開させて、円満な人格を具えた社会人・家庭人としてのよき女性の育成を目的とする（学則第1条）

## IV 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

### 1 選択的評価事項B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

聖徳大学学則は、その第10節「公開講座」第59条において、「社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開講することができる」と定めている。本学では、これに基づいて大学教育の公開サービス活動を展開している。その中核となっているのが、「聖徳大学オープン・アカデミー」(SOA ソア)である。「聖徳大学オープン・アカデミー規程」第3条には、その事業内容として、(1)公開講座、英会話講座、課外講座、(2)SEITOKU夏季保育大学、各種セミナー等、(3)図書館司書、司書補講習、その他各種検定試験、(4)その他SOA事業に関することと定められている。SOAは、平成4年4月に開設、平成13年4月には学内規程を整備し、上記の「聖徳大学オープン・アカデミー規程」をはじめ、すでに制定されていた「協力者会議規程」を改正、さらに「外部講師採用基準」、「公開講座修了者に関する取扱要領」を新たに制定した。

SOAの中心事業であるSOA公開講座については、その開講数及び受講者数は、開設時10講座、延べ273名であったが、平成14年の10周年では約70講座、延べ1,000名を越え、平成22年度にまでに通算55期開講し、延べで62,000人以上が受講している。

選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価の「観点ごとの分析」において使用される実績データは、生涯学習課、知財戦略課及び教務課音楽グループ等が収集、蓄積している資料(統計資料、議事録等)に基づいている。

## 2 選択的評価事項B 「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価

### (1) 観点ごとの分析

**観点B-1-①：大学の教育サービスの目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が周知されているか。**

#### 【観点到係る状況】

本学では、聖徳大学オープン・アカデミー（SOA）が中心となって、「社会人の教養を高め、文化の向上に資するため」に、各種の教育サービス事業を展開している。その内容は以下に列挙する通りである。その企画・立案・運営にあたっては生涯学習委員会などの教職員を主要な構成員とする委員会が組織的に監理し、また運営の実際にあたっては生涯学習課などが支援体制をとっている。なお、その開催にあたっては、詳細をホームページ（<http://www.seitoku.jp/soa/koukai/>）で案内しているほか、パンフレットを関係機関を通して配布するなどの広報活動を展開している。

#### ・SOA公開講座

SOA公開講座の実施については、毎年、年度当初の生涯学習委員会において講座や担当講師、それに日程等を内容とする計画案を決定し、公表している。平成22年度においては、第Ⅰ期（春期：4月～7月）、第Ⅱ期（秋期：9月～12月）、第Ⅲ期（冬期：1月～3月）を通して、前年度（平成21年度）の実績、講座数523：企画講座481、1Day講座42）、受講者数7,306名（企画講座6,627名、1Day講座679名）を踏まえて、講座数595（企画講座526、1Day講座69）、受講者数7,300名（企画講座6,600名、1Day講座700名）を見込んでいた。なお、受講生の確保にあたっては、前年（平成21年度）の満足度調査（「満足」70.9%、「やや満足」20.7%：受講者の回答率58.01%）を踏まえ、SOA会員（会員は優先継続申込制を適用）への案内書送付、近隣地域への新聞折込広告、近隣施設へのチラシ広告の配布、地域紙への掲載、ホームページ（前掲）への掲出などの広報活動を展開することにした。

また、本学で開講しているキッチン講座が評価され、クリナップ株式会社より寄付講座の申し出があり、平成21年度に引き続き、平成22年度もクリナップ寄付講座「キッチンから笑顔をつくる料理アカデミー」を年間6回開講することとした。また、継続的に開講している資産運用に関する講座について、住友信託銀行柏店より店舗内での講座を要請され、平成22年度内に2回、学外講座を実施する計画を立てた。

#### ・SOAオープニングセレモニー

生涯学習委員会がプログラムや講師などの内容を企画し、SOA公開講座の新年度の講座開講期（4月の第3土曜日の午後）に、SOA会員のほか、一般社会人をも対象に開催することとしている。平成22年度には、公開講演会とコンサート（パイプオルガン演奏）を主要な内容として開催を予定し、一般来場者（354名）のほか、422名の招待を計画した。

#### ・教員免許更新講習

教員養成課程を有する大学として、現職教員の教員免許の更新に資するため、文部科学省の要請に



より教員免許更新講習を開設し、制度が制定された平成21年度の前年の試行講習より参画している。本学では、教員免許更新講習委員会が、講習に関する企画、運営について審議し、実施に当たっている。同委員会では、同制度の見通しが必ずしも安定的とは言えない状況のもとで、平成21年度は1,000名の受講者を見込み、受講対象校への受講案内の送付、千葉県教育委員会経由での県内対象校への受講案内配布、本学ホームページ（前掲）への掲載などの広報活動を展開したが、実績はその約9割にとどまった。しかしながら、平成22年度は同制度の継続が明確になってきたことを踏まえ、1,320名の受講者を見込むことにした。

#### ・夏期保育大学

昭和43年に始まり、平成23年度で第43回を迎える。児童学部の教員を中心とした委員会を設置し、講義内容、講師、日程などの企画、立案、さらに実施体制などについて審議している。テーマを定め、講演会と分科会形式で、毎年度、7月下旬の土曜日に開催している。年度ごとに受講者数目標を定めて実施している。関東を中心とした地域への幼稚園、保育所へのハガキ、リーフレット送付、学内ニュースへの掲載、ホームページ（前掲）への掲出などの広報活動を展開している。平成20年度は620名の受講者を見込んだが、約9割の実績に止まったため、平成21年度は600名としたところ、1割以上のプラス実績が得られ、また満足度調査では8割を超える肯定的評価（81.7%）を得ていたため、平成22年度は750名の見込みを立てた。

#### ・免許法認定公開講座

教員養成課程を有する大学として、現職教員の免許状上進、隣接校種免許状、栄養教諭免許状、特別支援学校教諭の免許状取得の支援として、文部科学省への申請、認定を得て免許法認定公開講座を開設している。生涯学習課が、講座に関する企画、運営を行っている。関東を中心とした地域の幼稚園、小学校へリーフレット送付、学内ニュースへの掲載、ホームページ（前掲）への掲出などの広報活動を展開している。なお、年度ごとに受講者数目標を定めているが、平成20年度は1,620名の受講者を見込んだものの7割強、平成21年度は1,223名に対して8割弱の実績であったため、平成22年度は1,000名の受講者数見込みを立てた。

#### ・司書・司書補講習

司書・司書補講習は、文部科学大臣の委嘱を受け、図書館法に基づき開講している。司書科目担当教員による委員会を設け、司書講習、司書補講習の企画、立案、実施について検討している。文部科学省への申請、委嘱を経て、司書講習は7月下旬より約2ヶ月間、司書補講習は、8月上旬より約1ヶ月間開講している。関東を中心とした地域の図書館へ受講案内及びポスターの送付、ホームページ（前掲）への掲出などの広報活動を展開し、受講生を確保している。また、当講習は厚生労働大臣指定教育訓練講座ともなっており、資格を満たすことにより受講料の一部が補助される。募集定員は、司書講習100名、司書補講習50名で、例年定員をほぼ満たしていることから、平成22年度においても同様の計画を策定している。

#### ・介護技術講習

介護技術講習は、介護福祉士国家試験を受検する際、この講習の受講修了により実地試験が免除となる。担当教員による委員会を設け、計画を策定、日本介護福祉士養成施設協会への申請、指定を経

て例年6月、7月の2回実施している。日本介護福祉士養成施設協会からは各施設へ講習会開設機関の一覧が発送され、周知が図られている。平成22年度の募集定員は、2回で合計80名である。

・研究センター・研究所等の開放事業

SOA音楽研究センターでは、平成22年度、地域の市民のために、音楽学部の施設設備を利用し、声楽や器楽の個人レッスンの実施（登録可能数：237名）を計画、また各種の公開講座の開催を予定し、平成22年度はダルクローズリトミック講座（1回20名、2クラスで年間10回実施、延べ400名）、バロックダンス講座（1回10名、延べ8クラスで、800名）、音楽療法講座（1回20名で、全5回、延べ100名）を計画した。さらに、本学教員を指導者として全国警察音楽隊研修会（警察庁委嘱、研修生62名）を計画した。12月恒例の聖徳学園「第九の夕べ」を音楽学部教授の指揮で計画、1,300名の聴衆を見込んだ。また、児童学研究所・言語文化研究所・生涯学習研究所の3附置研究所ならびに心理教育相談所では、教育研究の高度化とともに、社会貢献を活動重点目標に掲げ、知財戦略課をコーディネーターとして、本学が有する知的財産、研究ネットワークを活用し、学内外の研究者による研究成果を、各種の講演会などを通して広く社会・地域に還元する取組を行っている。なお、これらの事業は、松戸市・市川市・柏市・取手市の各教育委員会の後援を受けて実施することで、行政と連携しながら生涯教育社会の進展に寄与することも視野に入れている。こうした方針、計画の実質化については、各研究所の運営委員会（児童学研究所は18名、言語文化研究所は19名、生涯学習研究所は14名、心理教育相談所は11名の教職員で組織）で審議され、PDCAの諸活動として展開されている。

Web資料 B-1-①-A	公開講座案内
Web資料 B-1-①-B	聖徳大学教員免許更新講習受講案内
Web資料 B-1-①-C	夏期保育大学パンフレット
Web資料 B-1-①-D	司書・司書補講習リーフレット
Web資料 B-1-①-E	介護技術講習受講案内 (URL <a href="http://www.seitoku.jp/soa/">http://www.seitoku.jp/soa/</a> )

訪問調査時提示資料 B-1-①-a	新聞折込チラシ
訪問調査時提示資料 B-1-①-b	SOAニュース

【分析結果とその根拠理由】

「社会人の教養を高め、文化の向上に資するため」に、各種教育サービス活動の計画を前年度の実績を踏まえ立案しており、またその詳細は各種のメディアによって周知されていると判断する。

観点B-1-②： 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

【観点に係る状況】

・SOA公開講座

平成22年度のSOA公開講座は、計画の通り、第Ⅰ期（春期：4月～7月）、第Ⅱ期（秋期：9月～12月）、第Ⅲ期（冬期：1月～3月）と年3期制によって開講されている。開講講座数は、これも計画の通り、年間で、講座数595（企画講座526、1Day講座69）であった。また、これも予定の通

り、クリナップ寄付講座「キッチンから笑顔をつくる料理アカデミー」を年間6回、さらに住友信託銀行柏店内で、平成22年の9月と10月の2回、資産運用に関する学外講座を開講した。

・SOAオープニングセレモニー

平成22年度におけるSOAオープニングセレモニーは、計画の通り、川並香順記念講堂での講演とコンサート（本学音楽学部教授によるパイプオルガン演奏）を主要な内容として、平成22年4月17日（土）の午後に開催された。

・教員免許更新講習

平成22年度の教員免許更新講習は、6月期を5月30日より6月27日までの毎日曜日に14講座を、8月期に8月17日より同21日までの5日間に17講座を、それぞれ計画の通り開催した。また、通信教育では、8月1日と同22日に試験を行った。

・夏期保育大学

平成22年度のSEITOKU夏期保育大学は、計画通りの日程と講義内容で、7月24日に開催された。

・免許法認定公開講座

平成22年度の免許法認定公開講座は、計画の通り、7月26日から8月28日まで、11期（1期3日間）で開催された。開講科目数は、これも計画の通り、各期26科目であった。

・司書・司書補講習

平成22年度の司書・司書補講習は、司書講習が7月26日より同年9月18日まで計画の通り開催された。また、司書補講習も8月6日より9月11日まで、計画の通り開催された。

・介護技術講習

平成22年度の聖徳介護技術講習会は、第1回が6月6日から27日までの毎日曜日に、第2回が7月4日から25日までの毎日曜日に、それぞれ計画の通り開催された。

・研究センター・研究所等の開放事業

SOA音楽研究センターの教育公開活動も計画の通り実施された。ただし、例年年度末の修了時に実施されているレッスンの発表会は東日本大震災のため、平成22年度は中止された。全国音楽警察隊は、平成22年8月24日～27日に計画通り実施された。恒例の聖徳学園「第九の夕べ」（指揮：音楽学部教授、教員・学生多数参加）は計画の通り、平成22年12月16日の夕刻に川並香順記念講堂で開催された。1,320名の聴衆が来校した。また、平成22年度の研究所等における大学公開事業は、開かれた大学への多くの市民の期待に応えることを目的として、すべて計画どおり実施された。具体的には、児童学研究所が2回の講演会とシンポジウム、言語文化研究所が2回の連続講演会、6回の公開研究発表会と日本語教育講座（文化庁委託事業3年連続採択）、生涯学習研究所が生涯学習フォーラム、心理教育相談所が講演会となっている。

Web資料 B-1-②-A	公開講座案内
Web資料 B-1-②-B	聖徳大学教員免許更新講習受講案内
Web資料 B-1-②-C	夏期保育大学パンフレット
Web資料 B-1-②-D	司書・司書補講習リーフレット
Web資料 B-1-②-E	介護技術講習受講案内 (URL <a href="http://www.seitoku.jp/soa/">http://www.seitoku.jp/soa/</a> )

訪問調査時提示資料 B-1-②-a	新聞折込チラシ
訪問調査時提示資料 B-1-②-b	SOAニュース

**【分析結果とその根拠理由】**

各種の教育サービスが計画に基づき適切に実施されていると判断する。

**観点B-1-③： 活動の結果及び成果として、活動への参加者が十分に確保されているか。また、活動の実施担当者やサービス享受者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。**

**【観点に係る状況】**

・SOA公開講座

平成22年度までの毎年度において、受講者は、あらかじめ設定した受講者目標数を大幅に上回っている。会員数も増加し、これに応じて開講数は毎年度約50の規模で増加している。平成22年度までの最近3年度の受講者数を、計画として設定された目標との対応（資料B-1-③-A）で示すと、以下のようなになる。

**資料 B-1-③-A 平成22年度までの最近3年度の公開講座実績**

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
受講者目標	5,500	6,300	6,600
受講者数	6,129	6,627	6,903
会員数	3,997	4,293	4,426
開講講座数	443	481	526

**【1DAY講座】**

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
受講者目標	—	—	700
受講者数	256	679	781
開講講座数	25	42	69

また、本公開講座では、每期、受講者に満足度調査を実施し、あわせて要望の把握に努めている。平成22年度の満足度調査（第Ⅱ期までの集計分で回収数3,062、回収率58.51%）では、「満足」が70.9%、「やや満足」が19.9%と、2期分の集計ではあるものの、「満足」及び「やや満足」両者の合計で、前年度をやや上回る満足度評価となっている。

・SOAオープニングセレモニー

SOAオープニングセレモニーは、ここ数年、来場者（資料B-1-③-B）の増加傾向が顕著である。平成22年度に来場者は、対前年度比で80%近い増加となった。本自己評価書作成段階ですでに終了している平成23年度のセレモニー（4月16日開催）では、東日本大震災復興チャリティーコンサートを兼ねたこともあって、来場者は予約者の来場予想者数の上限（80%）を超え、招待者をあわせて約1,500名であった。なお、この会場では、被災者救援のための募金活動が行われた。

**資料 B-1-③-B 年度別SOAオープニングセレモニーの来場者数等**

年 度	来場者数	公開講演講師
平成21年度	199	中川志郎氏（元上野動物園園長）
平成22年度	354	桂文楽氏（落語家）

平成22年度オープニングセレモニーの満足度出口調査では、公開講演の満足が72%、やや満足が9.7%であった（無回答15.4%）。またミニコンサートの満足度は53.7%、やや満足が9.7%であった（無回答36%）。

**・教員免許更新講習**

教員免許更新講習の受講生数は、制度自体の安定化とともに、徐々に増加の傾向を示している。実施2年目の平成20年度には、文部科学省の「免許状更新プログラム開発委託授業」に採択されており、広域連携と通信教育の複合講座のシステム開発に取り組んでいる。

**資料 B-1-③-C 教員免許更新講習の受講生数等**

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
受講者目標	1,000	1,320	1,320
受講者数	896	1,234	※1,986

※4月20日現在の申込者数

平成22年度は、必修講習と小学校教諭対象の選択講習は定員を充足した。文部科学省の様式による受講者評価により満足度調査を実施し、その様式に本学独自の自由記述欄を設け、受講生の要望把握に努めている。平成22年度の受講者評価の満足度調査では、必修領域が95.1%、選択領域が93.5%の肯定的評価を受けた。

**・夏期保育大学**

平成21年度に目標をかなり上回る受講者があったことにより、平成21年度においては目標をさらに高く設定し、講座の量や質を充実させた体制で臨んだが、結果は前年を下回り、前々年度を若干上回るものとなった。

**資料 B-1-③-D 夏季保育大学の受講生数等**

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
受講者目標	620	600	750
受講者数	548	684	577

毎年度、受講者に満足度調査を実施し、要望の把握に努めている。満足度調査では、平成21年度は81.7%平成22年度81.5%と8割を超える肯定的な満足度を得ている。

・免許法認定公開講座

毎年、夏期、冬期、春期の3回、現職教員の休暇期間に実施しているが、ここ数年の実績は、目標数の下方修正にもかかわらず、見込みを下回るものとなっている。

資料 B-1-③-E 免許法認定公開講座の受講生数等

	平成20年度	平成21年度	平成22年度
受講者目標	1,620	1,223	1,000
受講者数	1,165	955	882

毎回、受講者に満足度調査を実施しているが、平成22年度については、受講者数が低下するなかで、「満足」が65.1%、「やや満足」が18.3%となっており、前年度の「満足」59.0%、「やや満足」20.7%をやや上回る傾向を示している。

・司書・司書補講習

平成22年度においては、司書講習105名（定員100名）、司書補講習52名（定員50名）の受講者があった。なお、これは前年度の受講者実績を、司書講習で3名下回り、司書補講習で2名上回っている。なお、司書・司書補講習では、満足度調査は行っていない。

・介護技術講習

平成22年度においては、第1回（6月）に受講者37名（修了者34名）、第2回（7月）に受講者18名（修了者15名）であり、当該年度における受講者の合計は55名、修了者の合計は49名であった。なお、介護技術講習においては、満足度調査は行っていない。

・研究センター・研究所等の開故事業

平成22年度に開催したSOA音楽研究センターのレッスン部門は登録予定者数（237名）をわずかに下回る218名の参加者があったが、リトミック講座（計画400名）は270名、バロックダンス講座（計画800名）は490名、音楽療法講座（計画100名）は61名であった。全国警察音楽隊研修会は、個人レッスン73.3%、合奏等指導方法81.7%の満足度を示した。「第九の夕べ」には見込みをやや上回る1,320名の聴衆が来校した。研究所等の講演会・シンポジウム・フォーラム等の参加者数は、児童学研究所主催の講演会が延べ214名（目標200名）、シンポジウム165名（目標150名）、言語文化研究所主催の連続講演会が延べ1,685名（目標1,500名）、公開研究発表会が延べ332名（目標180名）、生涯学習研究所のフォーラムが1,048名（目標1,000名）、心理教育相談所の講演会が229名（目標150名）であった。また、参加者の満足度調査（SOA音楽研究センターでは満足度調査は行っていない）によると、1件で52.5%であったほかは、すべての講演会・シンポジウム等で70.6～97.3%以上の肯定的な満足度を得ている。なお、満足に否定的な意見としては、「ボリュームが多すぎる」、あるいは「難しすぎる」などがあげられている。

**【分析結果とその根拠理由】**

活動への参加者が十分に確保されていることを確認し、また参加者の満足度及び各種の意見聴取の結果からみて、活動の成果が十分に上がっていると判断する。

**観点B-1-④： 改善のための取組が行われているか。**

**【観点に係る状況】**

・SOA公開講座

毎期実施している満足度調査結果を生涯学習委員会に諮り、希望講座の開設等、受講生の意見を講座の改善に反映させている。また、SOA協力者会議を年2回開催し、外部有識者に講座企画に対する意見を聴取し、講座運営に反映させている。平成22年度には、受講生の要望の高い語学、健康のジャンルに、新規に語学3講座、健康関連2講座を開講し期待に応えた。さらに、絵画講座の増設を望む声を受け入れ、平成23年に度は新たに日本画講座を増設し、前年度の実績7,748名（企画講座6,967名、1Day講座781名）を踏まえて、7,750名（企画講座7,000名、1Day講座750名）を見込んでいる。

さらに、平成23年度には、特設講座企画（学科企画）を開講する予定で、人文学部心理学科（第I期）が「高校生から学べる心理学実践講座」（仮題）、人間栄養学部人間栄養学科（通年）が「楽しい健康クリニック」（仮題）のほか、音楽学部演奏学科・音楽総合学科でも開講の準備を進めている。

・SOAオープニングセレモニー

開催後にアンケートを生涯学習委員会に諮り、来訪者の意見を次年度の講師の選定及びコンサートの企画立案に参考としている。公開講演会は、希望の多かった講師に依頼している。コンサート企画は、その年がメモリアルイヤーの作曲家の曲目を取り上げる方式が従来好評であり、その趣旨をプログラムに盛り込んでいる（平成23年度は作曲家リストの生誕200年を記念した曲目を用意）。

・教員免許更新講習

平成21年度及び平成22年度の受講者は目標をやや下回ったが、平成23年度は同制度をめぐる諸情勢を判断して前年度と同じ目標受講者数を設定した。本自己評価書の作成段階で、すでに目標を上回る受講申し込みを受け付けている。なお、教員免許更新講習委員会では、受講者評価書を検討し、受講者の要望を講習に反映させている。その結果を承けて、例えば、平成23年度は、前年度の受講者からの要望により、急遽、受講申込受付期日を繰り上げ、希望の多い小学校教諭対象の講習を6講習増やし、あわせて300名の定員増を図り、必修講習も100名増募することとした。

・夏期保育大学

実施後にアンケート集計を委員会に諮り、受講生の意見を反映させている。この結果、平成23年度には、認定こども園等に代表される幼稚園、保育所の一元化の方向性が示されることから、テーマを「保育の未来」とし、注目度の高い保幼小の連携を目指した分科会を開設することとした。

・免許法認定公開講座

実施後にアンケート結果を検討し、受講生の意見を反映させている。平成22年度の冬期講習において試験的に1つの講習を3日間かけて行っていたものを2日間に凝縮し、受講生の来訪日数の負担軽減を図ったところ好評であったため、平成23年度より1つの講習を2日間とした日程を設定している。

・**司書・司書補講習**

平成23年度においては、前年度と同じ要項（司書講習：定員100名、司書補講習：定員50名）で受講者を募集することとした。

・**介護技術講習**

実施後に担当教員及び主任指導者による反省会を行い、アンケート内容を検討し、受講生の意見を反映するように努めている。平成23年度からは、近隣の福祉施設にも案内書を送付し、受講生の確保を図っている。

・**研究センター・研究所等の開放事業**

SOA音楽研究センターにおける各種レッスン、公開講座においては、平成22年度の実績を踏まえ、平成23年度には満足度調査を実施して受講者のニーズに基づいた計画を立案することとしている。全国警察音楽隊研修会は、8月に69名の研修生（警察庁集約）で実施を計画している。さらに、平成23年度には、新規の事業として、松戸市内の小中学校10校程度（児童・生徒 約330名）の参加を得て、「NHK全国学校音楽コンクール合唱講習会」を計画している。各研究所等における講演会・シンポジウム等で実施した満足度調査の結果は、各研究所の運営委員会で検討し、次年度以降の企画に反映させるように努めている。平成21年度からは、研究所連絡会（各研究所長と知財戦略課で構成）を設け、研究所間で積極的な意見交換等を行うなど、連携強化を目指した取組を行ってきた。これを承けて、平成23年度には各研究所が共通テーマに基づいたリレー形式の講演会を新たに実施する方向で詳細の検討に入っている。

**【分析結果とその根拠理由】**

活動の検証結果に基づき、その次年度に、日程、講座数、講座内容などにおいて、さらなる改善のための取組が行われていると判断する。

**(2) 目的の達成状況の判断**

目的の達成状況が非常に優れている。

**(3) 優れた点及び改善を要する点**

**【優れた点】**

1. SOA (Seitoku Open Academy) を中心として多種多様な大学開放事業を広く展開し、多くの参加者を得ている。
2. 地域の生涯学習拠点として、高い満足度を得ている。



3. 研究所や音楽学部を有していることから、その研究実績を活かした多彩な社会貢献を行っている。
4. 前年度の実績を検証し、当該年度の活動に活かしている。

**【改善を要する点】**

1. 個々の事業の実績は評価されるとしても、事業主体間の調整と連携協力が必ずしも十分ではない。

**(4) 選択的評価事項Bの自己評価の概要**

「社会人の教養を高め、文化の向上に資するため」に、各種の教育サービス活動の計画を、前年度の実績を踏まえて立案しており、その詳細は各種のメディアによって周知されている（P）。その教育サービス活動は立案された計画に基づき適切に実施されており（D）、活動の終了後は各種の調査を行い、参加者数、参加者の満足度などからみて活動の成果が十分に上がっていることを確認し、そのうえであらためて計画の履行状況を検証して（C）、その次年度に、日程、講座数、講座内容などにおいて、さらなる改善のための取組を行っている（A）。

